

安全データシート

1. 製品及び会社情報

製品名:ティシュー・テック パパニコロウ OG
製品コード:8665(500ml)、8666(3L)
会社:サクラファインテックジャパン株式会社
住所:〒103-0023 東京都中央区日本橋本町3-1-9
担当部門:開発企画部
連絡先住所:〒103-0007 東京都中央区日本橋浜町2-31-1 浜町センタービル
電話番号:03-5643-2629 フリーダイヤル:0120-392-874 FAX番号:03-5643-3382
e-mail: general@sakura-finetek.com
一般用途:細胞診用染色液

2. 危険有害性の要約

GHS 分類

物理化学的危険性	引火性液体	区分2
	自然発火性液体	区分外
健康に対する有害性	自己発熱性化学品	区分外
	金属腐食性物質	区分外
	急性毒性(経口)	区分外
	急性毒性(吸入:蒸気)	区分外
	急性毒性(吸入:ミスト)	区分外
	皮膚腐食性/刺激性	区分外
	眼に対する重篤な損傷・刺激性	区分2A
	生殖細胞変異原性	区分1B
	発がん性	区分外
	生殖毒性	区分1A
環境に対する有害性	特定標的臓器・全身毒性(単回)	区分3(気道刺激性、麻酔性)
	特定標的臓器・全身毒性(反復)	区分1(肝臓)、区分2(神経)
	水生環境急性有害性	区分外
	水生環境慢性有害性	区分外

上記に記載のない分類項目については分類対象外又は分類できない。

ラベル要素

絵表示又はシンボル:炎、健康有害性、感嘆符



注意喚起語:危険

危険有害性情報:引火性の高い液体及び蒸気

重篤な眼への刺激。遺伝性疾患のおそれ。生殖能または胎児への悪影響のおそれ。

呼吸器への刺激のおそれ、眠気、めまいのおそれ。

長期又は反復暴露による肝臓の障害。長期又は反復暴露による神経の障害のおそれ

予 防 策: 使用前に取扱説明書を手し、注意書きを読み、理解すること。容器を密閉しておくこと。

屋外又は換気の良い場所でのみ使用すること。蒸気、ミスト、スプレーの吸入を避けること。

熱、花火、裸火等の着火源から遠ざけること。禁煙。防爆型の機器を使用すること。火花を発生しない工具を使用すること。保護手袋及び保護眼鏡等の保護具を着用すること。移送、攪拌する場合は、静電気放電に対する予防措置を講ずること。

取扱後は良く手等を洗うこと。使用時は飲食、喫煙を控えること。

対 応: 吸入した場合は新鮮な空気のある場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させる。気分の悪いときは、医師の診断を受けること。皮膚に付着した場合は、直ちに汚染された衣類を脱ぐこと。また流水で良

く洗うこと。気分が悪い場合は医師の診断を受けること。

眼に入った場合は、水で注意深く洗うこと。コンタクトレンズを着用していて、容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。眼への刺激が持続する場合は医師の診断、手当てを受けること。取扱った後は、良く手等を洗うこと。

暴露又は暴露の懸念がある場合又は気分が悪い場合は医師の診断、手当てを受けること。

保 管: 容器を密閉し、涼しい、換気の良い場所で保管すること。施錠して保管すること。

廃 棄: 内容物、容器は当該自治体の規則に従って廃棄すること。

3. 組成、成分情報

単一製品混合物の区別:混合物

危険物成分・特定化学名	エタノール	オレンジ G	リンゲステン酸
含有量%	約 73%	約 0.5%	約 0.02%
官報公示整理番号(化審法)	2-202	5-1457	1-1079
CAS No.	64-17-5	633-96-5	12501-23-4

4. 応急措置

- 吸入した場合 : 新鮮な空気のある場所に移動させ、鼻をかませ、うがいをさせる。安静にし、医師の手当てを受ける。
- 皮膚に付いた場合 : 多量の水及び石鹼で洗い流す。症状がでた場合は、医師の診断、手当てを受ける。
- 眼に入った場合 : 清潔な水で最低 15 分以上洗眼後、必要に応じて眼科医の診断を受けること。洗眼の際、まぶたを指で開いて、眼球、まぶたの隅々まで水がいきわたるように洗浄する。
- 飲み込んだ場合 : 多量の水又は食塩水を飲ませ、吐かせ、直ちに医師の診断、手当てを受ける。
- 応急措置をする者の保護 : 救助者はゴム手袋と密閉ゴーグル等の保護具を着用する。
- 予想される急性症状 : 成分のエタノールは、眼への刺激、呼吸器への刺激のおそれ、眠気及びめまいのおそれがある。

5. 火災時の処置

- 消 火 剤 : 粉末消火薬剤、水溶性液体用泡消火剤、二酸化炭素、乾燥砂、霧状水
- 火災・爆発時の危険 : 火災時に刺激性もしくは有害なガスを発生するため、消火の際には、煙を吸い込まないように適切な保護具を着用する。
- 消 火 方 法 : 速やかに容器を安全な場所に移す。移動不可能な場合は、容器及び周囲に散水して冷却する。火元への燃焼源を断ち、適切な消火剤を使用して消火する。消火活動は可能な限り風上から行う。消火のための放水等により、環境に影響を及ぼす物質が流出しないよう適切な処置をする。
- 消火を行う者の保護 : 消火作業の際は、適切な空気呼吸器、化学用保護衣を着用すること。

6. 漏洩時の措置

- 人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置 : 作業の際は、適切な保護具を着用し、漏洩した液が皮膚に付着したり、蒸気を吸入しないようにする。風上から作業し、風下の人を退避させる。漏洩して場所の周辺にロープを張る等して、関係者以外の立ち入りを禁止する。
- 環境に対する注意事項 : 流出した製品が河川などに排出され、環境へ影響を起こさないように注意する。大量の水で希釈する場合は、汚染された排水が適切に処理されずに環境へ流出しないように注意する。
- 二次災害の防止策 : 漏洩した液は、けいそう土などに吸着させて、空容器に回収する。漏洩した場所は、水で十分に洗い流す。付近の着火源となるものを速やかに取り除く、着火した場合に備えて、消火用器材を準備する。

7. 取扱い及び保管上の注意

- 取 扱 : 火気厳禁。高温物、スパークを避け、強酸化剤との接触を避ける。
容器を転倒させ、落下させ、衝撃を与え又は、引きずる等の粗暴な扱いをしない。
作業場所の換気を十分に行う。漏れ、溢れ、飛散しないようにし、みだりに蒸気を発生させない。
目、皮膚、衣服への接触を防ぐ。蒸気や煙霧の吸入を防ぐ。

保 管 : 直射日光を避け、換気の良い涼しい場所に密閉して保管する。
 強酸化性物質、火源の近くに保管しないこと。
 塩化ビニル樹脂(軟質)、アクリル樹脂などの容器は使用しないこと。

8. 暴露防止及び保護措置

管 理 濃 度: エタノール 設定されていない

許 容 濃 度: 日本産業衛生学会(1996年度版) : エタノール 設定されていない

ACGIH(1996年度版) : エタノール 1,000ppm, 1,880mg/m³

設 備 対 策: 取扱については、できるだけ密閉された装置、機器又は局所排気装置を使用する。

保 護 具: (目、皮膚、顔面) : 不浸透性保護手袋、安全メガネまたはゴーグルを着用する。

(呼 吸) : 設備対策では推奨限界値以下に大気中濃度を維持できない場合は、有機蒸気用の防毒マスク等を使用する。フード(防爆タイプ)のような十分換気された環境下で使用するのが望ましい。

(保護着) : 長袖作業着(つなぎ)またはエプロン、耐薬品性長靴、その他の身体保護着。

9. 物理的及び化学的性質

臭 気: 芳香臭。	爆 発 特 性: 爆発限界 上限 19.0vol% 下限 4.3vol%
外 観 等: オレンジ色の揮発性液体	蒸 気 密 度: 1.59(エタノールとして)
沸点・融点 : データなし	密 度 : 0.83g/mL(20°C)
引 火 点: 20.8°C タグ密閉式	溶 解 度: 水と任意の比で混和
発 火 点: データなし	

10. 安定性及び化学的性質

危険を避けるための条件 : 熱、スパーク、静電気、喫煙、炎を近づけない
 使用していない場合や運搬する場合は容器をしっかり密閉する。輸送や使用前に、容器は電氣的に接合して接地しなければならない。

安 定 性 : 標準的な温度と気圧の下で安定。

反 応 性 : 強酸化剤と接触すると、反応することがある。

避けるべき条件 : 日光、熱

危 険 分 解 物 質 : 一酸化炭素、硫黄酸化物。

接 触 を 避 け る 物 質 : 酸化剤

11. 有害性情報

急性毒性: エタノールの高濃度蒸気には麻酔作用があり、蒸気を吸入すると、頭痛、めまい、嘔吐などを起こす。

エタノールとして: ラット 経口 LD₅₀=14g/kg、イヌ 経口 LD₅₀=5500mg/kg

ラット 吸入 LC₅₀=2000ppm/10H、マウス 吸入 LC₅₀=39g/m³/4H

皮膚腐食性・刺激性:

エタノールは「OECD TG404 及び American guidelines に従った試験により、刺激性でない」の記載がある。

眼への影響 : 眼に対して強い刺激性がある(区分 2A)。エタノールは「OECD TG405 及び Draize test に従った試験により、moderate と分類されている」、また「ヒトで角膜上皮の傷害、結膜充血は1、2日間で回復する」の記載がある。

生殖細胞変異原性: 遺伝性疾患のおそれ(区分 1B)

エタノールは、ラット及びマウスにおける優性致死の報告及びマウス生殖細胞における異数性誘発の報告がある。

発 がん 性 : ACGIH ではエタノールを A4(ヒト発がん性に分類できない物質)に分類している。

生 殖 毒 性: 生殖能又は胎児への悪影響のおそれ(区分 1A)

アルコールの習慣的な大量摂取によりヒト胎児に対する奇形その他の悪影響が多数報告されている。

急性的な暴露の影響: 呼吸器への刺激のおそれ。眠気またはめまいのおそれ(区分 3)

「ヒトでエタノールの経口摂取により中枢神経系に影響を与え、頭痛、疲労、集中力を低下させ、急性中毒の場合は死に至ることがある」の記載及び「ヒトで 5000ppm(9.4mg/L)の吸入により気道刺激性、昏迷、病的睡眠を起こす(ACGIH(2001))との記載がある。

慢性的な暴露の影響:

長期又は反復暴露による中枢神経系、視覚器の障害(区分 1)又は血管、肝臓、脾臓の障害のおそれ(区分 2)

「ヒトでアルコールの長期大量摂取により、ほとんど全ての器官に障害を起こすが、最も悪影響を与える標的器官は肝臓である。障害は脂肪変性に始まり、壊死と線維化を経て肝硬変に至る」の記載がある。

また、「アルコール中毒患者の禁断症状(振戦症状、てんかん、精神錯乱)」の記載がある。

12. 環境影響情報

魚 毒 性 : エタノールとして 甲殻類(オオミジンコ) $LC_{50}/48H=5463.9\text{mg/L}$
残留性、分解性、蓄積性、生態毒性、オゾン層の破壊、土壤中の移動性: データなし

13. 廃棄上の注意

廃棄方法: スクラバーを具備した焼却炉で焼却処理を行う。又は都道府県の許可を得た廃棄物処理業者に委託処理をする。空容器を廃棄する場合は内容物を完全に除去した後処分する。

14. 輸送上の注意

国内規制

消 防 法: 危険物第4類引火性液体アルコール類水溶性液体

道 路 法: 施行令第19条の13(通行制限物質)

船 舶 安 全 法: 危規則第3条危険物告示別表第1引火性液体類

航 空 法: 施行規則第194条危険物告示別表第1引火性液体類

国 連 分 類: クラス3(引火性液体)等級II

国 連 番 号: 1170

安全対策・条件: 輸送に際しては直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れがないことを確認する。落下、転倒、破損がないように積み込み荷崩れの防止を確実にを行う。その他、危規則に従う。

15. 適用法令

消 防 法: 危険物第4類 引火性液体アルコール類水溶性液体

化 審 法: 該当しない

毒 劇 物: 該当しない

労働安全衛生法: 施行令別表第1危険物(引火性のもの)。名称等を通知すべき危険物及び有害物(法第57条の2、施行令第18条の2別表第9)

海洋汚染防止法: 施行令別表第1有害液体物質(Z類)

船 舶 安 全 法: 危規則第3条危険物告示別表第1引火性液体類

航 空 法: 施行規則第194条危険物告示別表第1引火性液体類

港 則 法: 施行規則第12条危険物告示引火性液体類

16. その他の情報(引用文献)

- ① 溶剤ハンドブック 講談社, 1976
- ② 化学物質指針5 日本化学協会編 丸善, 1980
- ③ Dangerous Properties of Industrial Materials, 6th ed. N.I.Sax 他編 Van Nostrand Reinhold Company, 1984
- ④ 化審化学物質、通商産業省基礎産業局 化学品安全課監修 化学工業日報社, 1991
- ⑤ 危険物ハンドブック、ギンター・ホンメル編 シュプリンガー・フェアラーク東京, 1991
- ⑥ 国際化学物質安全性カード(ICSC)日本語版 化学工業日報社, 1992
- ⑦ Merck Index 11th ed
- ⑧ 毒劇物基準関係通知集 改訂増補版 厚生省薬務局安全課監修 薬務広報社, 1991

この製品の安全データシートは、各種文献等に基づいていますが、必ずしも全てを網羅している物ではありません。取扱には十分に注意してください。

卸店: